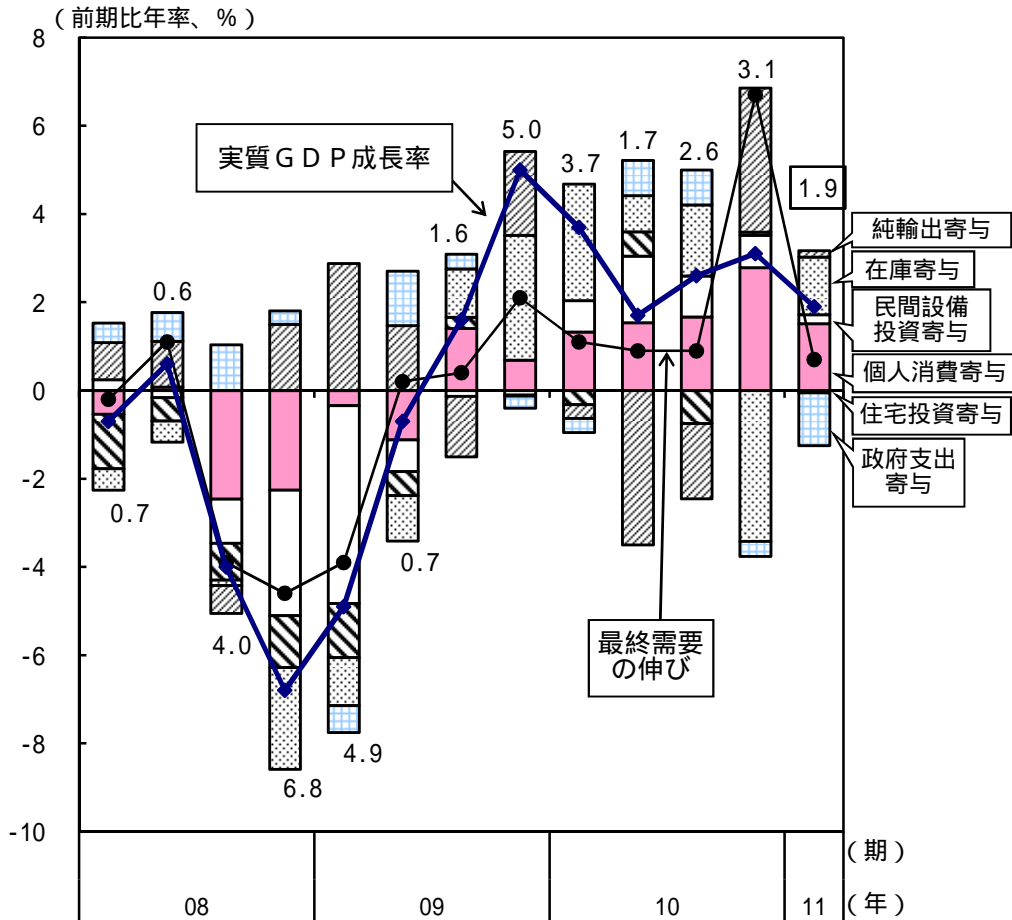


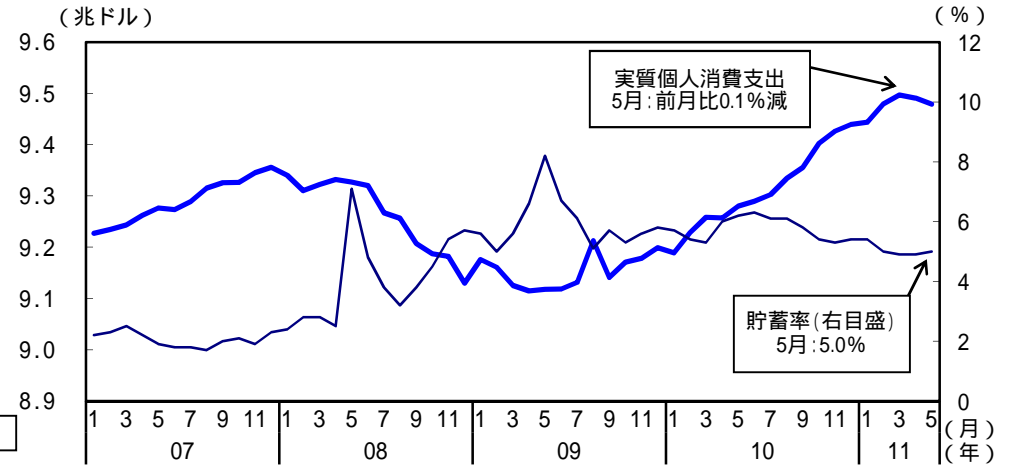
1. アメリカ

アメリカでは、景気回復が緩やかになっている。先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。

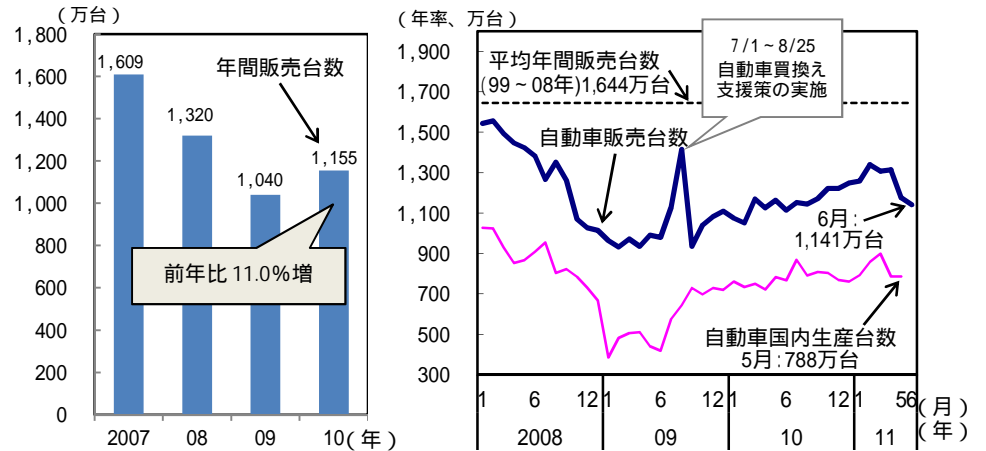
GDP (第3次推計値):
2011年1~3月期は前期比年率1.9%成長



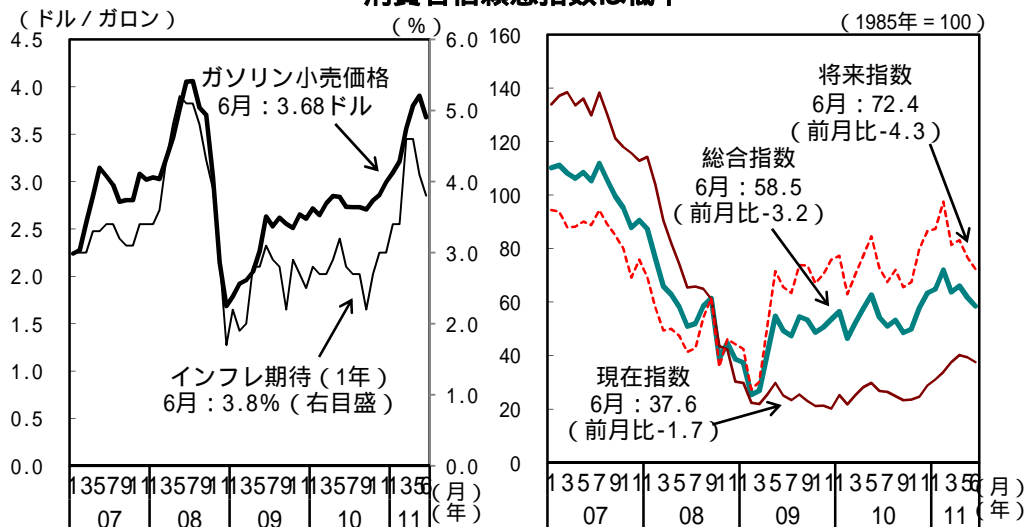
消費:このところ増加のテンポが鈍化



自動車販売台数は足元減少

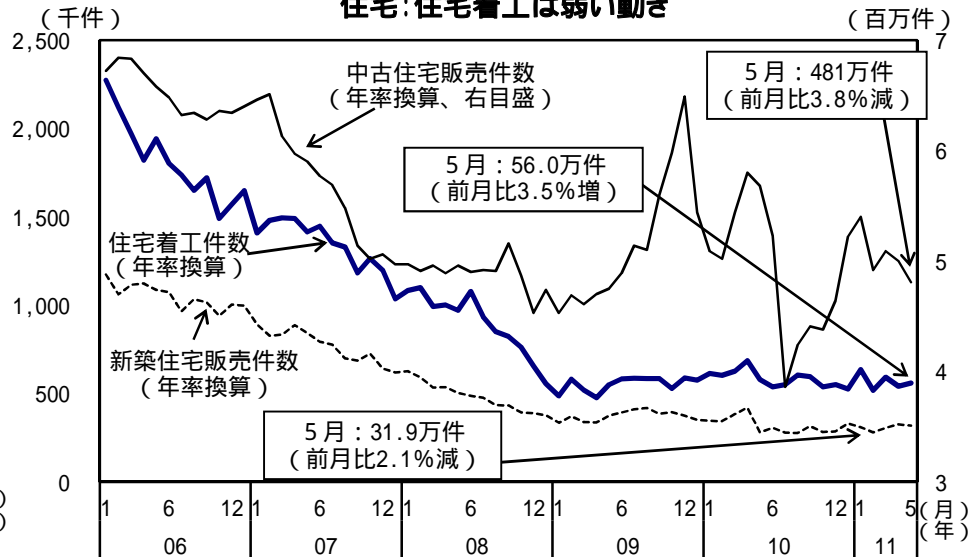


消費者信頼感指数は低下



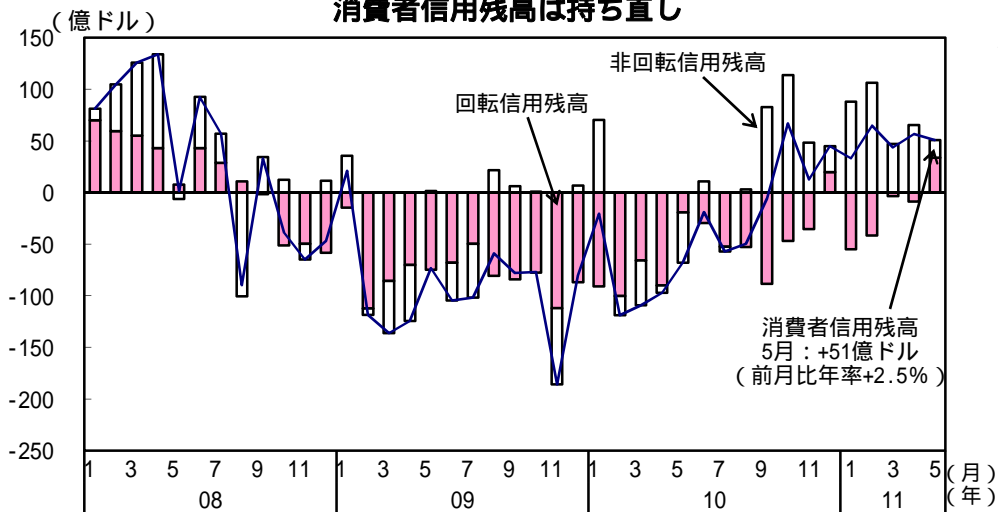
(備考) 1. コンファレンス・ボード、米エネルギー省、ミシガン大学より作成。
 2. 将来指数は6か月後の見通し。ガソリン小売価格は月平均価格。
 インフレ期待は、今後1年後における物価上昇率予測回答の中央値。

住宅: 住宅着工は弱い動き



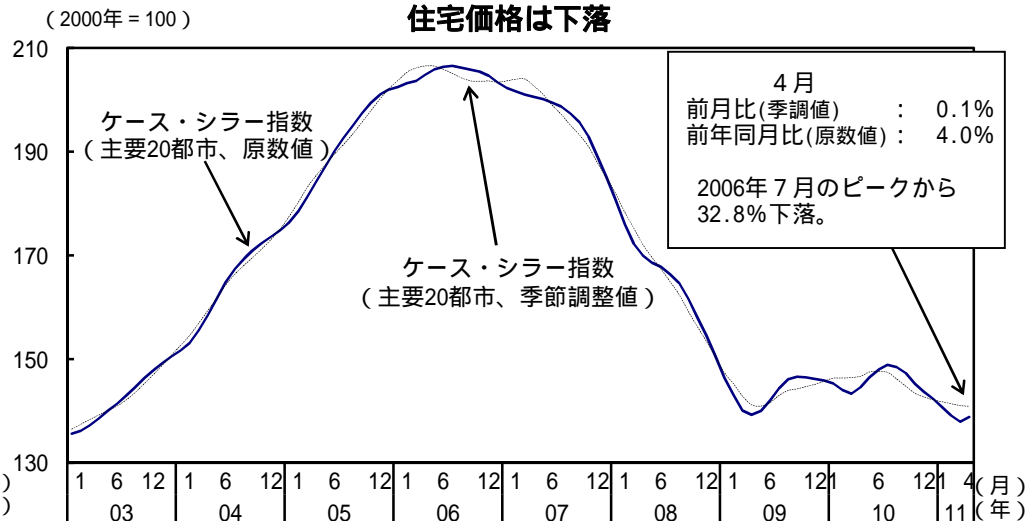
(備考) アメリカ商務省、全米不動産業者協会 (NAR) より作成。

消費者信用残高は持ち直し



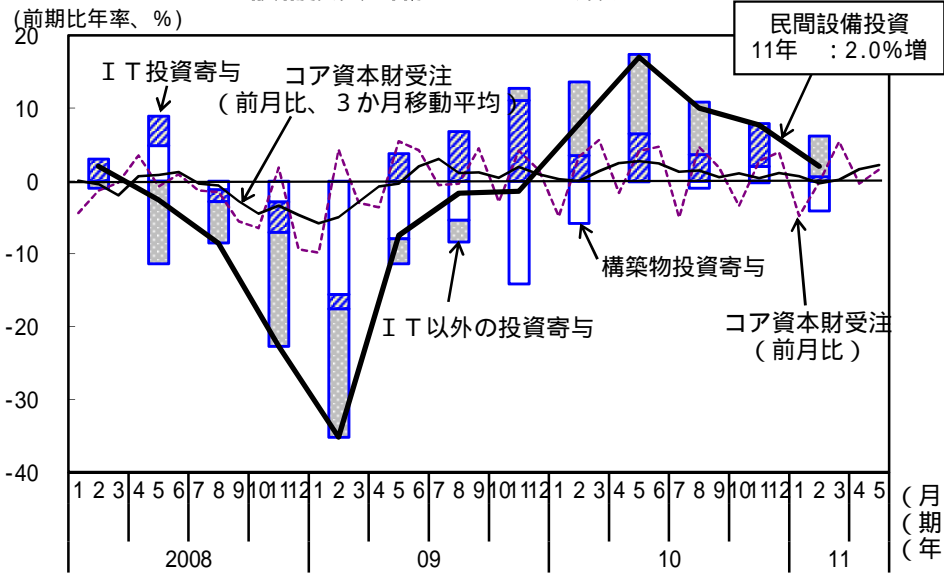
(備考) 連邦準備制度理事会 (FRB) より作成。

住宅価格は下落



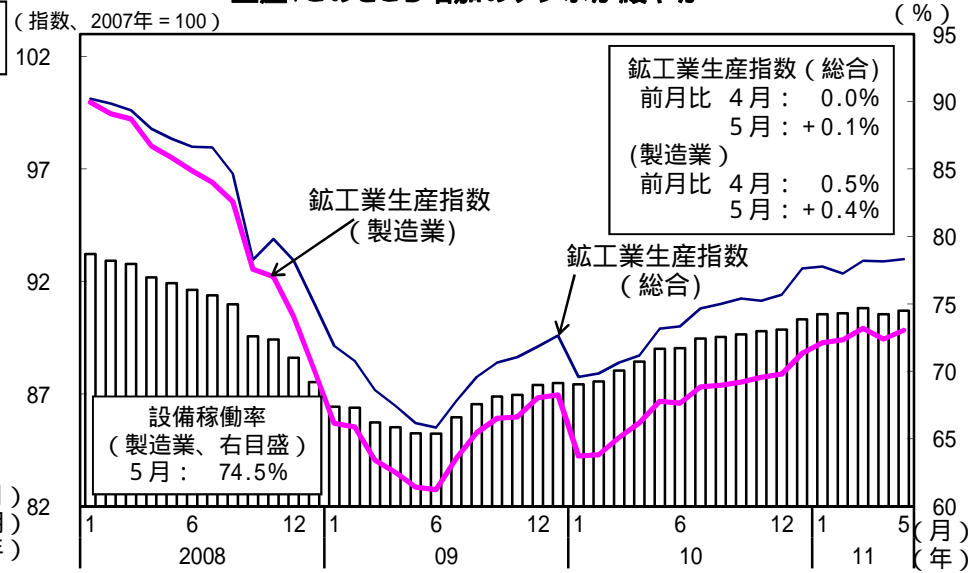
(備考) スタンダード・アンド・プアーズより作成。

設備投資:増加のテンポが緩やか



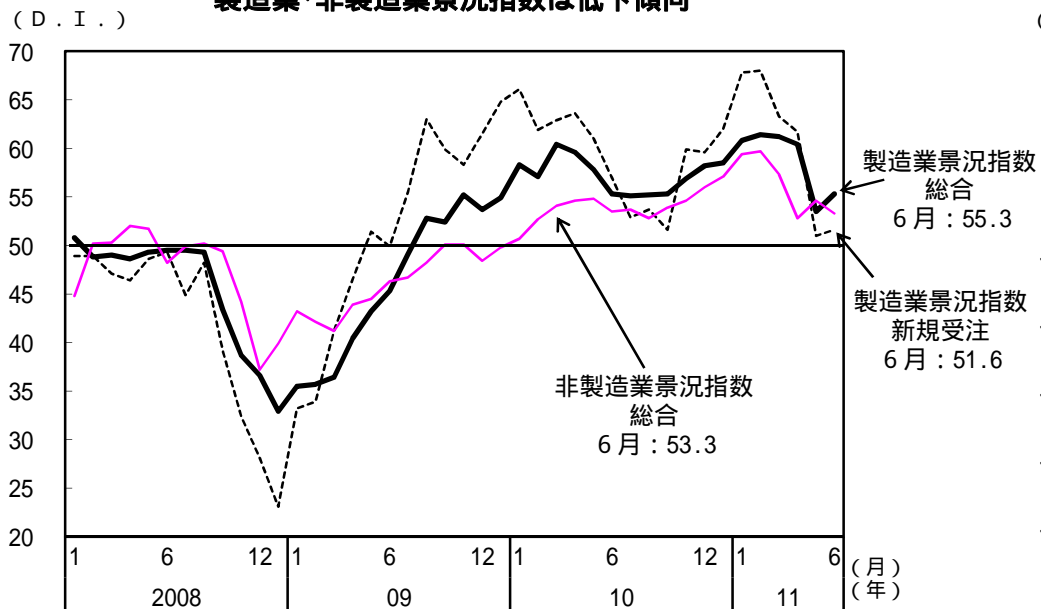
(備考) アメリカ商務省より作成。

生産:このところ増加のテンポが緩やか



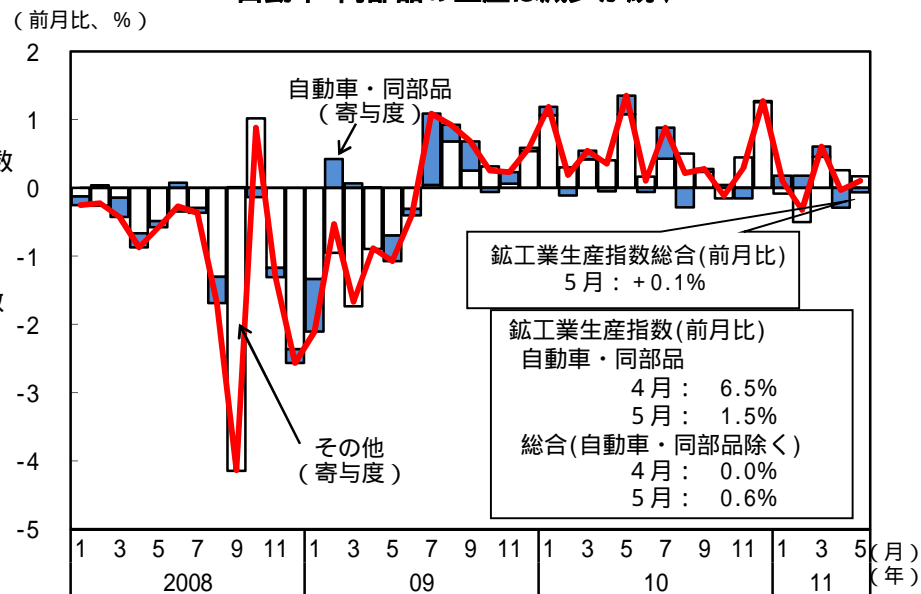
(備考) 連邦準備制度理事会 (F R B) より作成。

製造業・非製造業景況指数は低下傾向



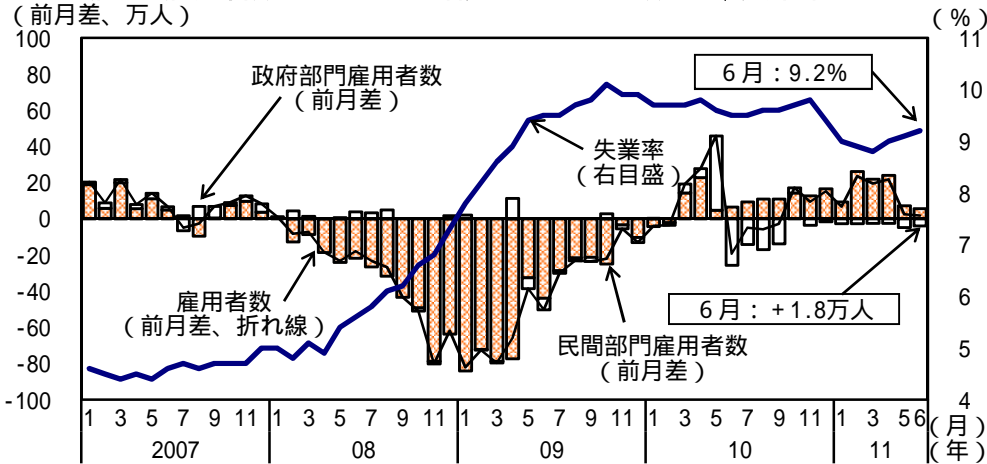
(備考) 全米供給管理協会 (I S M) より作成。

自動車・同部品の生産は減少が続く



(備考) 連邦準備制度理事会 (F R B) より作成。

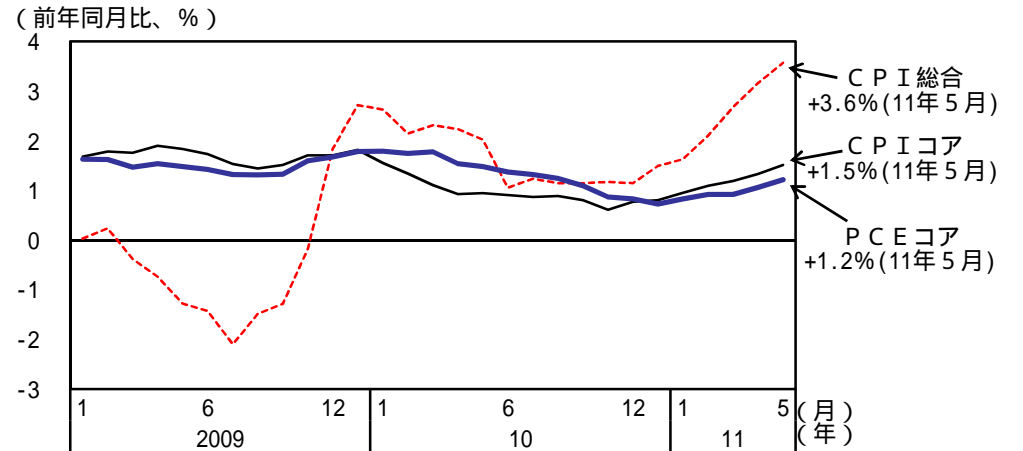
雇用：雇用者数はこのところ増加のテンポが緩やか、失業率は上昇



08～09年の雇用者数増減： 866.3万人
 10年以降の雇用者数増減： +169.7万人

(備考) アメリカ労働省より作成。
 雇用者数は非農業部門。

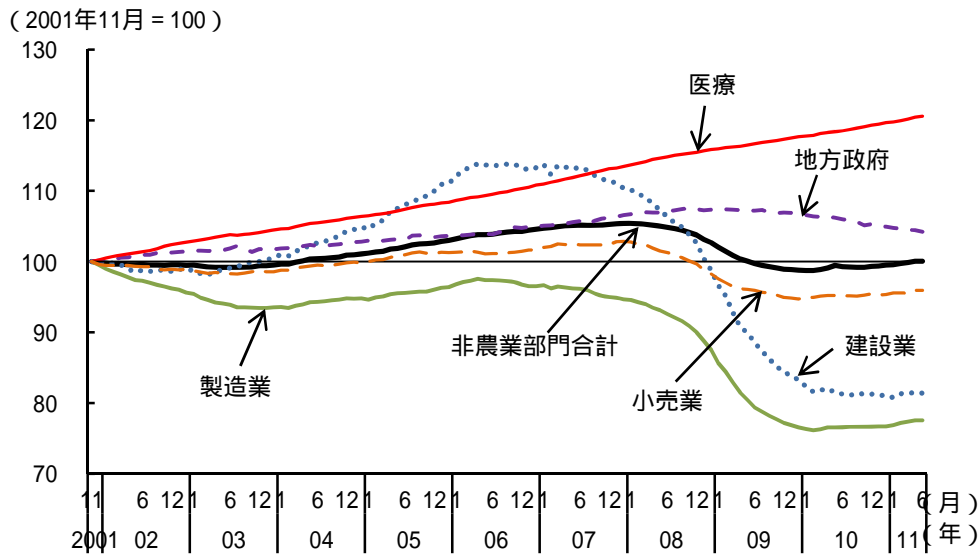
物価：コア物価上昇率は緩やかに上昇



エネルギー価格
 前年同月比 5月：+21.5%
 食品価格
 前年同月比 5月：+3.5%

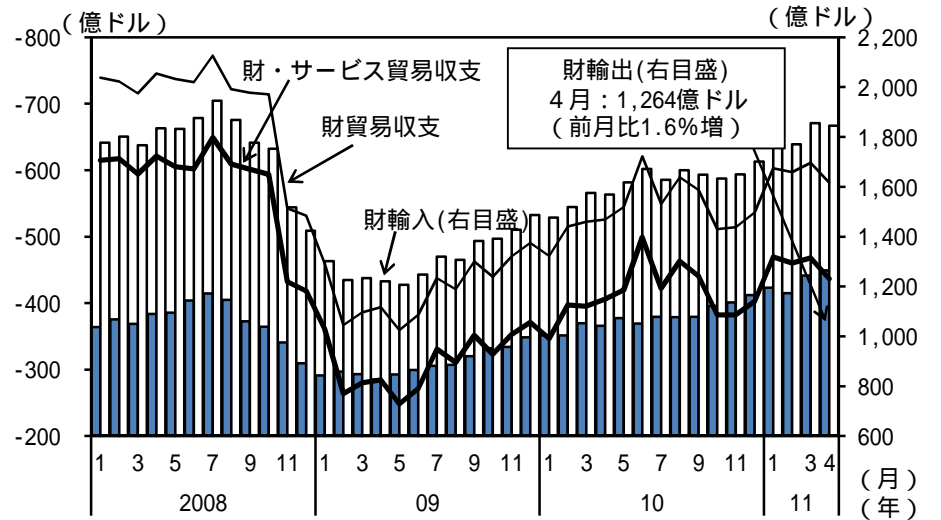
(備考) 1. アメリカ労働省、商務省より作成。
 2. コア指数は、総合指数からエネルギーと食品を除いた指数である。

雇用：製造業は雇用を縮小、医療は拡大



(備考) 1. アメリカ労働省より作成。
 2. 2001年11月時点(前々回の景気の谷)の各産業の雇用者数を100として指数化。

貿易：財輸出は増加



(備考) アメリカ商務省より作成。

主要機関等による見通し

		(前年比、%)	
		11年	12年
ブルーチップ (民間見通し平均) (11年6月10日)	上位10社	2.8 (2.9)	3.7 (3.9)
	平均	2.6 (2.7)	3.1 (3.2)
	下位10社	2.3 (2.4)	2.5 (2.5)

		(前年比、%)	
		11年	12年
I M F (11年6月17日)		2.5	2.7
O E C D (11年5月25日)		2.6	3.1
行政管理予算局(O M B)(11年2月14日)		2.7	3.6
議会予算局(C B O)(11年1月26日)		2.7	3.1
連邦公開市場委員会(F O M C)(11年6月22日)		2.7~2.9 (10~12月期の前年同期比)	3.3~3.7 (同左)

- (備考) 1. ブルーチップ・インディケータ(11年6月10日号、5月10日号)、I M F “World Economic Outlook”(11年6月17日)、O E C D “Economic Outlook 89”(11年5月25日)、アメリカ行政管理予算局(11年2月14日)、アメリカ議会予算局(11年1月26日)、連邦公開市場委員会(11年6月22日)より作成。
2. ブルーチップのカッコ内は、11年5月10日時点の見通し。

連邦政府財政をめぐる最近の動向

1. 連邦債務の法定上限の引上げをめぐる動き

- 債務残高は、5月16日に法定上限(14兆2,900億ドル)に到達したため、法律上の規定に基づく特別措置により、若干の余裕を設けたところ。
- 現在の財務省の予測では、8月2日には最終的な上限に達する見通し。
- 仮に債務上限が引き上げられない場合は、「米国債がデフォルトに陥るリスクがある」。(ガイトナー財務長官からリード上院院内総務あて書簡)

2. 最近の動向

- 与野党の議会指導部とバイデン副大統領による、財政赤字削減に向けた議会超党派・政府の協議会を設置。6月末までの最終合意を目指したが、協議は不調。
- 現在、オバマ大統領と共和党・民主党指導部との間で直接交渉が継続的に行われている。

(参考) 連邦政府の財政状況(11年度:10年10月~11年9月) (実績見込み)

財政赤字GDP比	: 10.9%
債務残高GDP比	: 102.6%
国債依存度	: 43.1%

6月21~22日の連邦公開市場委員会(F O M C)

1. 景気判断

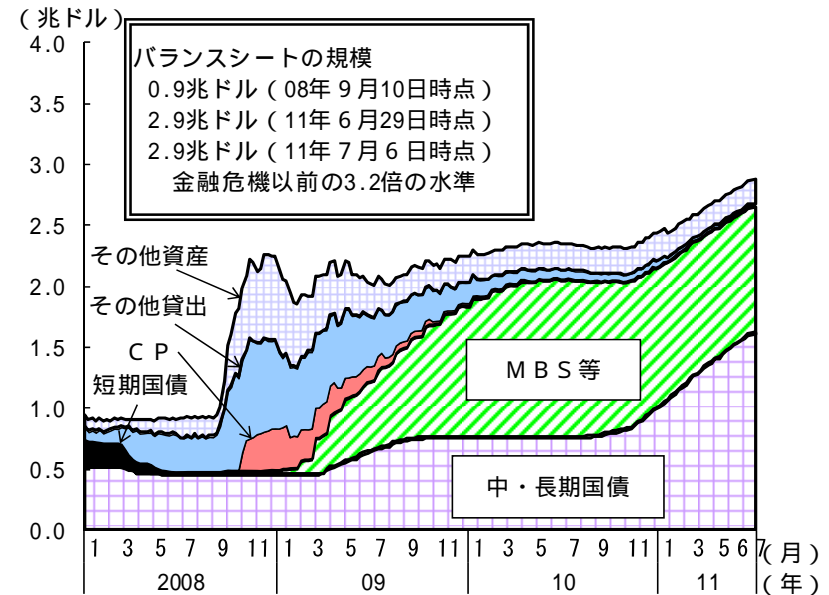
- 景気回復は緩やかなペースで続いているが、予想していたよりも幾分遅い。また、最近の労働市場の指標は想定以上に弱まっている。
- インフレ率は、主に、一部の商品や輸入財の価格上昇、最近のサプライチェーンの寸断の影響を反映して、ここ数か月で上昇している。しかしながら、長期的なインフレ期待は引き続き安定している。

2. 金融政策

- FF金利の誘導目標は現行の0~0.25%を据え置き。「異例に低水準のFF金利がさらに長い期間妥当となる公算が大きい」との表現に変更なし。
- QE2(中長期米国債の購入)を予定通り6月末で完了し、保有証券の元本償還分を再投資する。(バランスシートの維持をF O M C声明文で初めて明言)

3. バーンキ議長のF O M C後の記者会見のポイント

- 足元の景気減速要因の一部は一時的なものだが、金融セクターや住宅セクターの弱さを考慮し、2012年の実質GDP成長率見通しを下方修正した。
- F R Bが今回、追加の資産買入れについて行動を取らなかったのは、昨年の夏時点と状況が異なるため。昨年夏時点ではデフレリスクがかなりあった。QE2はデフレリスクの除去に成功した。
- 声明文における、低水準のFF金利が妥当とされる「長い期間」(for an extended period)とは、少なくともF O M Cの会合2、3回の期間のこと。ただし、経済情勢に応じて、さらに長くなる可能性もある。



(備考) 連邦準備制度理事会(F R B)より作成。